

(2) 国内自給推進のための具体的方策等

- 適正使用の一層の推進
- 医療関係者に対する啓発、患者への情報提供
- 国内献血由来製品の生産の増大
- 遺伝子組換え製剤の供給
- 特殊免疫グロブリン製剤：献血者への免疫プログラム導入
- 国内献血由来原料血漿を使用した海外での生産
- 国内献血由来製品の海外への提供

(3) 製品の供給に係る当面の対応

- 平成元年に提言されたいわゆる供給一元化の考え方について、これを肯定する意見と否定する意見の双方のメリット・デメリットを議論。
- ワーキンググループによるヒアリングを実施して現時点の供給の実情を整理。
- 今後の供給体制の在り方を議論する上では、当面、関係者の基本的な意識の改善が必要。
- 血漿分画製剤の供給体制については、輸血用血液製剤の供給体制も考慮した上で、血液事業全体の中で検討していくことが必要。

(4) 血液事業の安定化に向けた中長期的課題

- 日本赤十字社の血液事業の安定化、医療関係者への教育の充実、医療機能評価における血液製剤の適正使用に関しての指標化、免疫グロブリン製剤の使用動向や遺伝子組換え製剤の導入後の対応等を整理。
- 今でも取り組める課題等には関係者が積極的に取り組みを進めていくことが重要。

(5) 安全で安心な血液事業の将来へ向けて（安定的な運営）

- 血漿分画製剤が献血によって得られる貴重なものであることの認識の幅広い共有が必要。
- 血液事業全体の将来像を見通しながら、製造体制・供給体制の在り方を絶えず描いていく努力が必要
- 血液事業を支える根幹が善意による献血者であることを十分意識して、公正性と透明性を持った議論を今後とも重ねていく必要。
- 関係者の弛まぬ努力を期待。